

生活環境常任委員会	10月22・23日	岩手県盛岡市、宮城県仙台市
子ども教育常任委員会	10月21・22日	大阪府大東市、奈良県大和郡山市



誰ひとり取り残されない学びの保障としての 不登校支援を実現するために

子ども教育常任委員会

「学びへのアクセス100%」について 大阪府大東市

コロナ禍以降の取組みと意識の変化

コロナ禍での学校環境の変化やGIGAスクール構想によって、不登校児童・生徒への教員や家族・保護者の意識の変化、新しい考え方が進んできました。

「何らかの学びにアクセスしているか」ということを基準に、他者との関わりやコミュニティでの活動を含め学びと捉え、ICTの活用によりさらに多様な支援ができることを浸透させることに注力してきたとのことです。

校内・校外での支援と民間活力

市内の小中学校20校(全校)で校内教育支援ルームを展開して、教室で過ごすことが難しい児童・生徒への居場所づくり、そこでもなお過ごすことが難しい児童・生徒の居場所づくりの一つとして、教育支援センター「ボイス」を運営しています。

校内教育支援ルームでは、不登校支援員として市からの配置だけではなく、学校が直接地域募集や人材バンク制度を利用し、現場に即した取組みを開始。教育支援センター「ボイス」では、フリースクール運営の民間活力の協力によ

り、運営を担ってもらっています。

今後は大阪府と連携し、オンライン学習の取組みをさらに進めていく予定とのことです。

多摩市でも不登校支援の取組みとして、東京都のオンライン等のICT活用を行っていますが、他自治体の取組み事例や情報共有をしていくことが必要です。



未然防止からの不登校対策総合プログラム 奈良県大和郡山市

通常の学校を子どもたちにとって楽しい場所に

2024年度、文部科学省によると、小中学生の不登校は過去最高の35万人を越え、多摩市も例外ではなく深刻な状況です。

大和郡山市は22年前から不登校対策に取組み、誰一人取り残さない教育をめざし現在に至っています。とりわけ、2024年度に大きくブラッシュアップし、不登校になった子を支援するだけでなく、不登校にならないようにする未然防止の視点で取組んでいます。そのために、学校が子どもにとって「学びが楽しい」と思える授業づくり、学習の基礎・基本が身についていない子どもへの早期対応、みんなでいることが楽しいと感じられる場所にするを柱にしています。このことは本市においても重要です。

あゆみルームと分教室「ASU」について

2019年、家から外に出るきっかけづくりと安心できる居場所づくりのため、あゆみルームを開室し、2023年「学

びの多様化学校」として、分教室「ASU」がスタートしました。あゆみルームでコミュニケーションの苦手な子どもに個人活動から少人数、集団とスモールステップで進めた後、希望者は「ASU」に正式に入室します。ASUは、総授業数は通常の3割程度削減していますが、子どもたちが不登校だったとは信じられないほど成長すると説明され、本市においても必要と感じます。

